

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	22-036	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Predictors of reported alcohol intake during the first and second waves of the COVID-19 pandemic in Canada among middle-aged and older adults: results from the Canadian Longitudinal Study on Aging (CLSA)</p> <p>カナダにおける中高年者の COVID-19 パンデミックの第 1-2 波における報告アルコール摂取量の予測因子 : Canadian Longitudinal Study on Aging (CLSA) による結果</p>		
執筆者		
McMillan JM, Hogan DB, Zimmer C, Sohel N, Wolfson C, Kirkland S, Griffith LE, Basta NE, Raina P; Canadian Longitudinal Study on Aging (CLSA) Team.		
掲載誌		
Can J Public Health. 2022 Oct;113(5):665-677. doi: 10.17269/s41997-022-00661-5. Epub 2022 Jul 11.		
キーワード	PMID	
多量飲酒、飲酒変化、カナダ、COVID-19、パンデミック	35818014	
要 旨		
<p>目的： COVID-19 パンデミックにおける飲酒量変化および多量飲酒の割合と背景因子を検討した。</p> <p>方法： 2011-2015 年 Canadian Longitudinal Study on Aging (CLSA) ベースライン調査に参加したカナダ在住一般市民男女 (45-85 歳) 51,338 人のうち、2020 年 COVID-19 調査に参加した 24,114 人を対象とした。主要評価項目は、2020 年の質問票に基づく飲酒量変化および多量飲酒とした。飲酒者にパンデミック (2020 年 3 月) 以降の飲酒量変化について尋ね、「変化なし」「変化あり (増加または減少)」に分類した。また、一回 5 杯 (女性は 4 杯) 以上の飲酒頻度について尋ね、月 1 回以上 (常連) または月 1 回未満 (時々) を多量飲酒者とした。ベースライン調査または COVID-19 調査より、対象者背景 (年齢、性別、学歴、収入、地域、居住人数など)、メンタルヘルス (うつ、不安、孤独など)、および大麻使用などの背景因子について尋ねた。背景因子と飲酒量変化および多量飲酒との関連について、ロジスティック回帰分析により多変量調整オッズ比 (OR) および 95% 信頼区間 (CI) を算出した。</p> <p>結果： パンデミック以降に飲酒量に変化した者は 26.3% (増加 13.0%、減少 13.3%) であった。多量飲酒者は 27.9% (常連 16.7%、時々 11.2%) であった。飲酒量変化 OR は、若年 (65 歳未満 OR[95%CI]: 1.44[1.31-1.59] vs. 75 歳以上)、高所得、大麻使用、抑うつおよび不安で有意に高く、これらの OR はいずれも飲酒量減少より増加で高かった。多量飲酒 OR は、男性、若年、高所得、大麻使用および抑うつで有意に高かった。</p> <p>結論： 飲酒量の増加や多量飲酒の背景には、若年、高所得、大麻使用、精神状態の悪化などの因子があった。この情報は、パンデミック時にリスクを持つ者のスクリーニングや介入法を方向付けるのに役立つ可能性がある。</p>		